

世界のヴァナキュラー建築とパッシブ省エネ効果

このテーマのキーワード	ヴァナキュラー建築 パッシブ省エネルギー
関連するSDGs 開発目標	   

研究内容(社会背景・目的、概要、期待される効果)

(社会背景・目的)

世界各地の風土に根ざした伝統民家などのヴァナキュラー建築は、機械に頼らず自然の力を最大限に利用したパッシブ省エネ建築でもあります。低炭素社会への実現に向け、ヴァナキュラー建築に連綿と受け継がれてきた省エネの知恵や技術・技能を解明し、現代に取り入れていくことを目的とします。

(概 要)

アジアを中心に伝統建築の現地実測調査を行い、その構法や住まい方に加え、温熱環境についてもデータを収集し、伝統建築の改良とともに、新たなパッシブ省エネ建築を提案しています。

(期待される効果)

本研究は低炭素社会の実現に向けての学際的、国際的交流を必須条件としており、その成果はハード（技術）とソフト（国際交流）の両面で期待できます。



中国黄土高原の地下住居ヤオトン（山西省）



西インドの階段池クンダ（アーバーネリー）

想定される適用分野・用途・業界

- 省エネルギーや自然との共生・融和を考慮した建築業界や環境教育に関わる分野

産業界へのアピールポイント

- 温故知新、伝統建築に蓄積された先人たちの知恵をグローバルな視点にたち、新たな技術・技能へと受け継ぎます。

建設学科 八代 克彦 教授

このテーマに関するお問合せ
E-mail : mric@iot.ac.jp

ものづくり研究情報センター
TEL : 048-564-3880

進化する技・深化する知
 **ものづくり大学**
INSTITUTE OF TECHNOLOGISTS